

「香川大学デジタルONEアンバサダー」による業務システム内製開発

木村 悠佑

香川大学 情報部情報システム課

「香川大学デジタルONEアンバサダー」の取り組み概要

- 「市民開発」とは、非情報人材である事業部門がローコード・ノーコードプラットフォームなどを用いてシステム開発をおこなう活動
- 「デジタルONEアンバサダー」は、**非情報人材である事業部門職員が任命**されており、「デジタルONEアンバサダー」による業務システムの内製開発は、この「市民開発」の取り組みに該当する
- 「市民開発」はIT人材不足を解消し、開発コストが削減できるなどのメリットがあるが、開発には一定程度の研修が必要であるというデメリットも指摘されている
- ガートナーは、事業と情報技術の両面からのアジャイルなチームを「フュージョンチーム」と定義し、組織に設置することを推奨した
- マイクロソフトは、「フュージョンチーム」による開発を「**フュージョン開発**」と定義した
- 香川大学の「DXラボ」、「DX推進研究センター」、「デジタルONEアンバサダー」が、それぞれ「フュージョン開発」の「プロ開発者」、「ITプロフェッショナル」、「市民開発者」の役割を担っている（図1）
- DX推進研究センターはデータに基づいて市民開発を支援する方策を策定すべく、アンバサダーに取組状況の報告を依頼している
- 2025年度は92件の報告**が実施され、2022～2025年度合わせて**324件の報告**となった（表1）

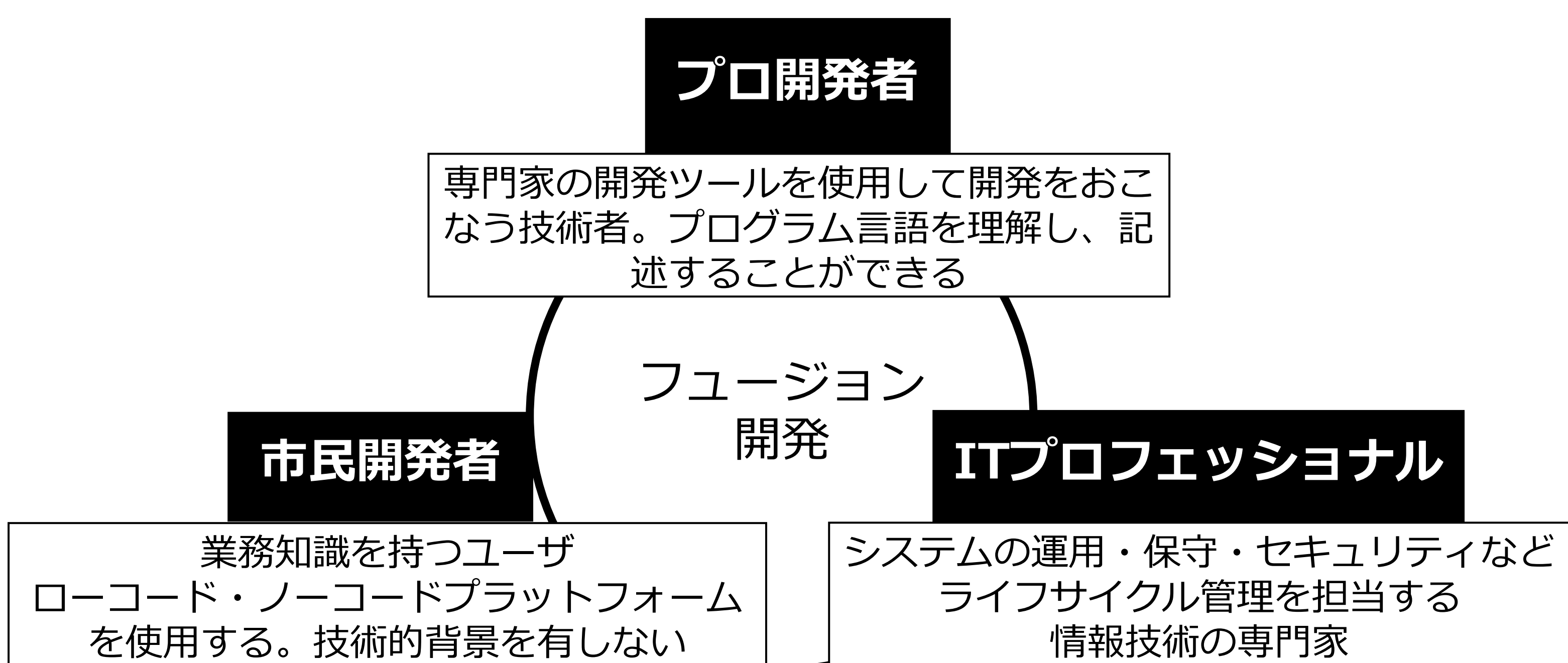


図1 フュージョン開発

表1 2025年の開発事例（本シンポジウムポスター展示事例）

番号	開発事例	所属
1	安全保障輸出管理 × 研究インテグリティ 2つの必須手続の統合と申請業務の一元化	地域連携推進課 国際課
2	教務システム「カダサポ」のID申請システムの開発	教育企画課
3	貸出ロッカー管理システムの内製開発 ～業務効率化と学生利用率向上に向けて～	修学支援課
4	図書館医学部分館演習室 web予約システムの内製開発	情報図書課
5	教授会における電子投票の導入	農学部事務課
6	名刺管理・引継ぎを効率化する 「AI名刺」アプリの内製開発	広報課
7	AIによるカレンダー自動登録システムの内製開発	施設環境部
8	作業記録アプリの内製開発	農学部附属農場

業務システム内製開発の強化

- 部門横断型や既存システムの横展開などの、他部署との調整・規則の改正・運用ルールの変更 の調整が必要なプロジェクトが見られるようになった
- 各部門の業務に精通した課長職等の管理職を**スーパーバイザー**として任命、**内製開発したシステムの全学展開や、運用にのせるための規則改正などをサポート**している（図2、表2）
- 2024年度はスーパーバイザー向けの研修会を2回実施（図3）
第1回：ビジネスプロセス作成とその改善について
第2回：ビジネスプロセスに基づくビジネスモデル作成について

表2 スーパーバイザーの活動内容

活動内容	例
アンバサダー開発システムの全学展開	落とし物管理システムの他キャンパスへの展開
アンバサダー開発システムに応じた運用変更	自動車入構システムの手続きの運用変更
複数部署にまたがる業務の共通化の合意	誓約書システムの導入により、業務を共通化
業務の廃止・見直し	毎年行っていた現況確認業務を廃止 「疑義発生時の個別確認＋定期的な自動送信メールにて注意喚起」に変更

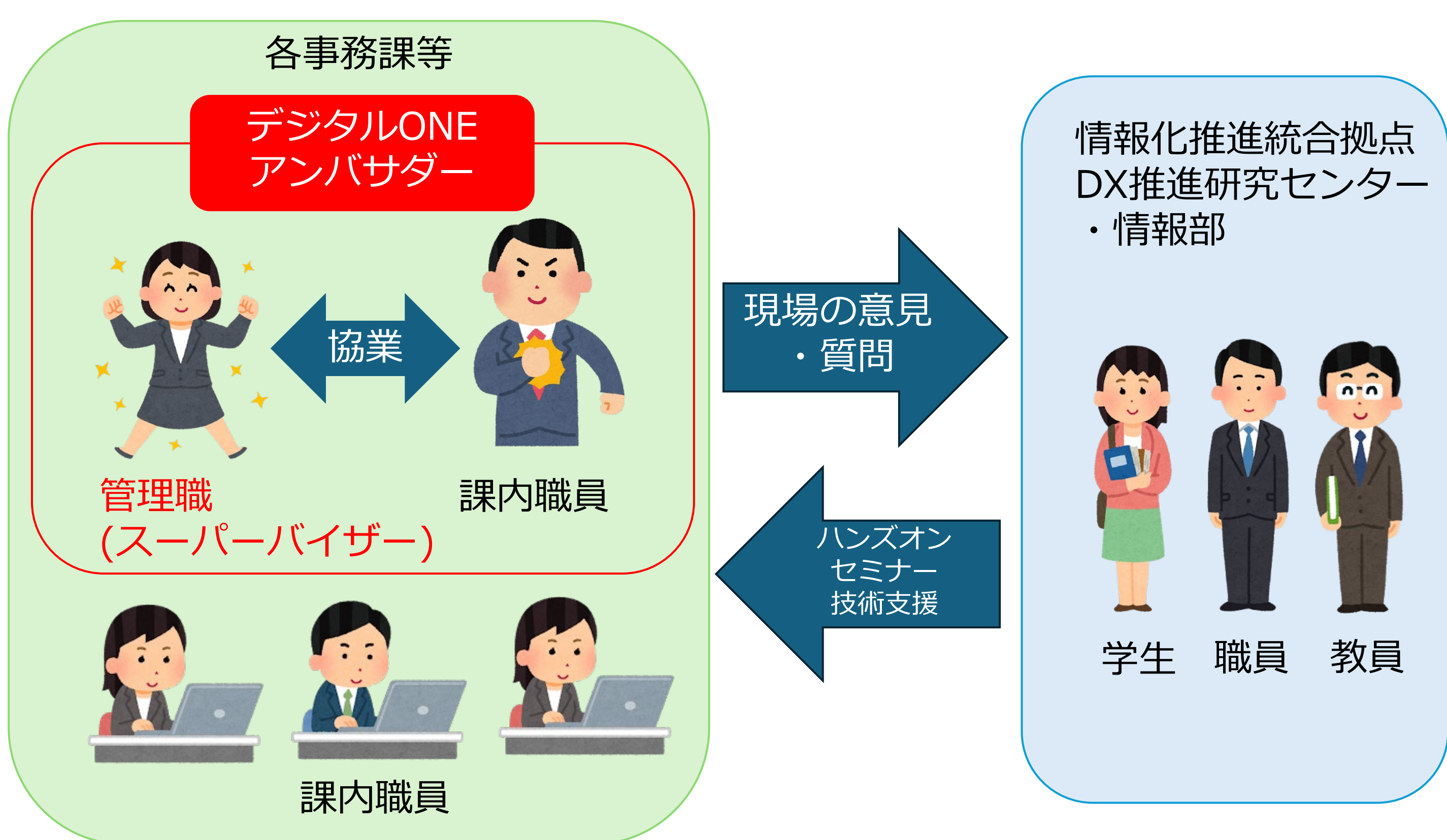


図2 スーパーバイザーの概要



図3 研修会の様子

今後の活動

- 管理職（スーパーバイザー）と業務担当者間の協働による内製システムの全学展開／高度化
- アンバサダー開発システム一覧の可視化による開発傾向等の分析（図4）
- アンバサダーの活動を通じて得られた実践知を学術論文として公開

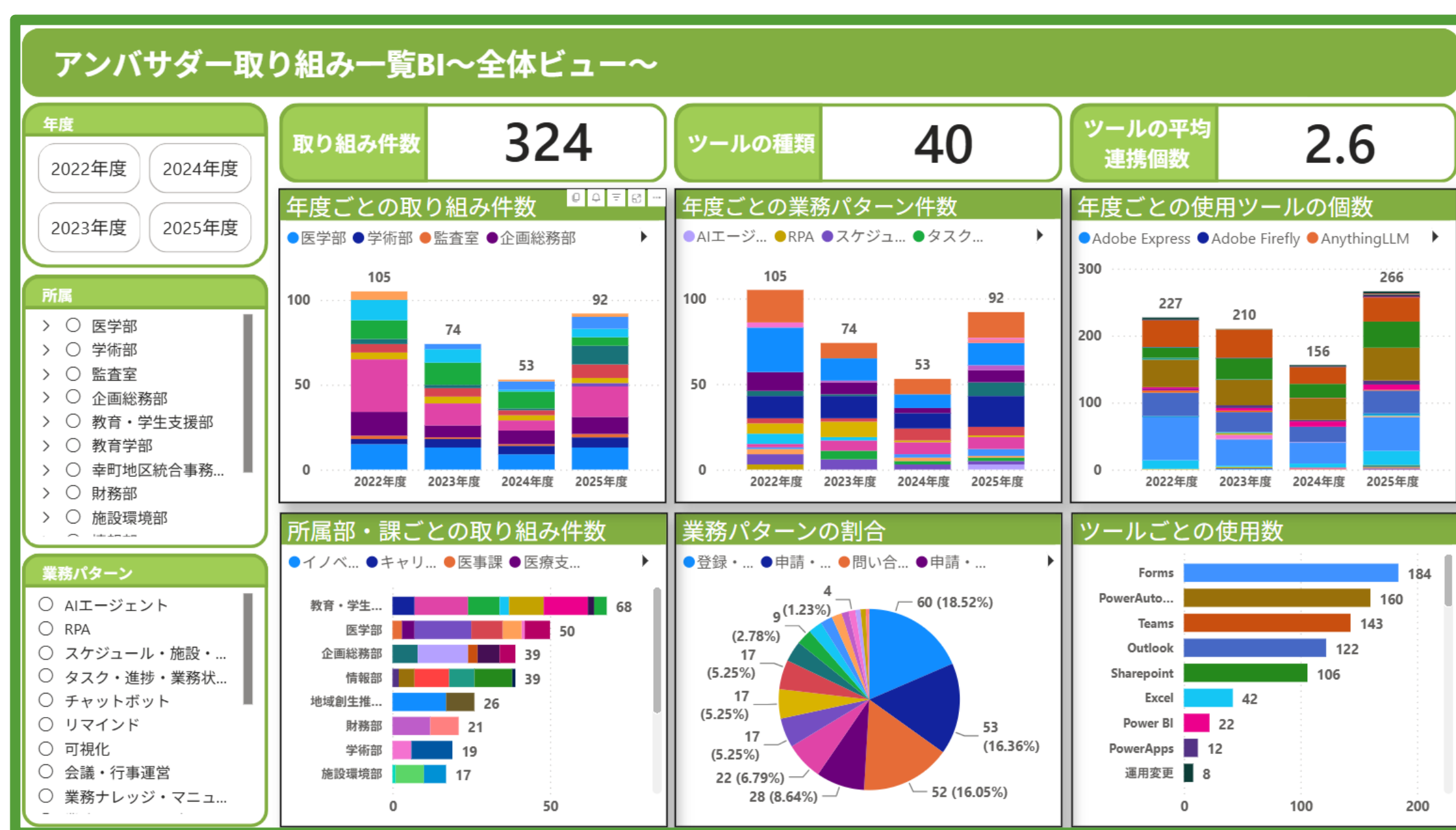


図4 アンバサダー開発システム一覧BI